

第2回 福島県における復興祈念公園のあり方
(基本構想への県提言)
検討有識者会議

【住民意見発表会における主な意見】

平成27年12月7日

福島県土木部まちづくり推進課

1. 現地視察

第1回 平成27年11月2日(月)
第2回 平成27年11月17日(火)

①公園候補地北端(公園候補地を望む)



②浜野橋 (前田川下流を望む)



④諏訪神社



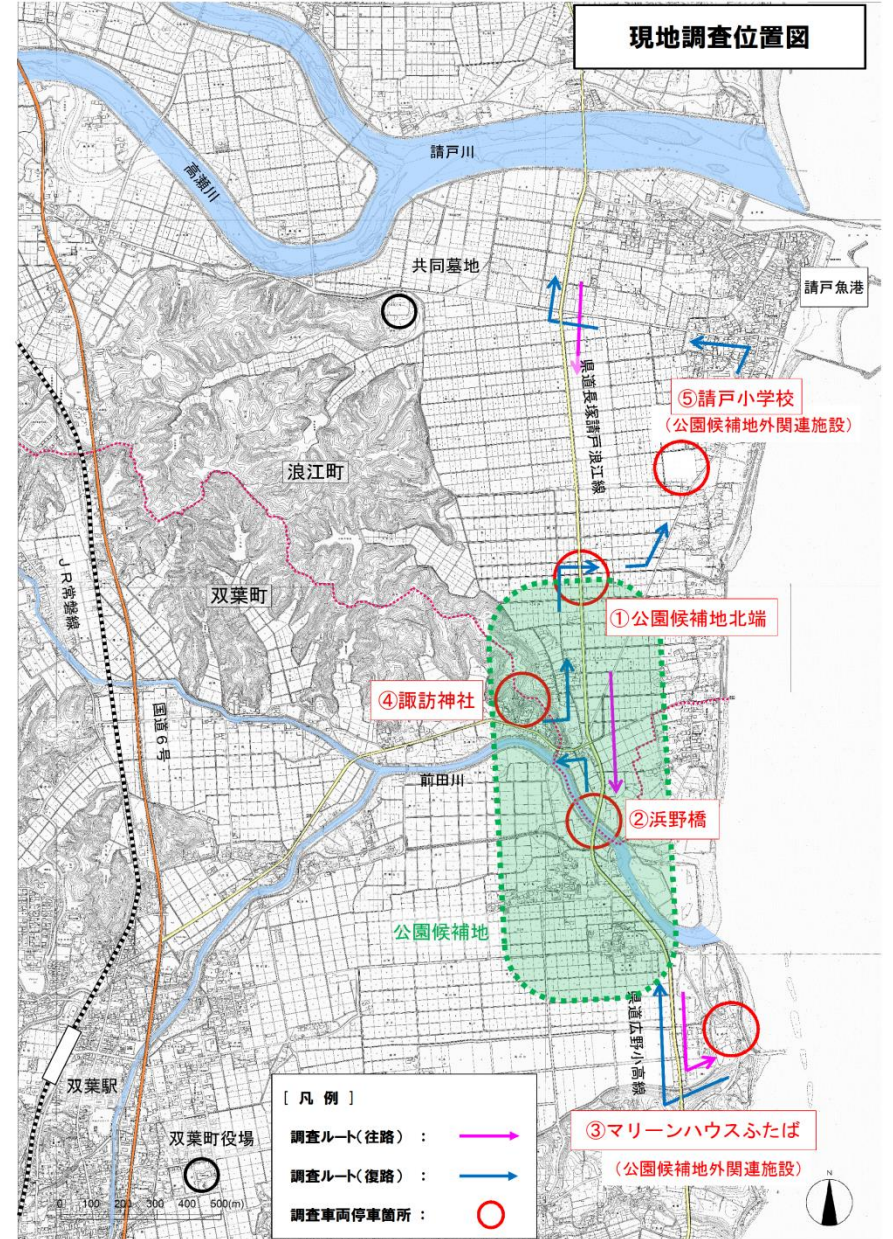
④諏訪神社からの眺望



11/2 視察状況



11/17 視察状況



日時:平成27年11月2日(月) 会場:浪江町役場2階大会議室

金井 春子様:【浪江町】 中浜行政区

- 今回の震災では、私を見つけた警察官の方に津波から助けて頂きました。少しの差で命に関わる重大なことになるところでした。震災を経験して、避難訓練だけでなく、今回の震災のことや避難方法等について家族で話をしていれば、心のどこかに残り必ず活かされると思うので、復興祈念公園が家族で震災の会話をする場所になれば良いと思います。
- 復興祈念公園は、皆さんの心が癒されるように、双葉町と浪江町の何かいいものを取り入れた場所にして欲しい。私としては、公園に波しぶきみたいな形のものを作って、鎮魂ができるといいかなあとと思います。
- 子供たちが何十年か先に戻ってきた時に、ここで津波震災があって皆さんが亡くなったんだという想いが残るような公園としてほしい。自分の故郷で同じ部落の方が亡くなられていることも含め、故郷への想いが一番である。
- 亡くなった方のために自分が生かされたことに対しての重みがあり、自分の時代で震災の経験を終わらせたくない。後世に、自然と子供達がこういうことがあったんだということを伝えていくことが、亡くなった方への鎮魂にもつながる。

日時:平成27年11月2日(月) 会場:浪江町役場2階大会議室

齊藤 六郎様:【双葉町】 両竹行政区長

- 双葉町の復興会議の中で、津波で犠牲になった方々のために追悼・鎮魂の場として、ぜひ公園が欲しいという話がありました。国と県で祈念公園をつくることになった話を聞いて、大変有り難く、感謝申し上げたいと思います。
- 今回の震災では、私も実際に津波に流された経験をしました。しかし、そのことのみならず、助かるべき命が助けられなかった残念な思いが私にはあります。具体的には、我々が津波から避難した後、同じ地域で避難しないで家に居た方がおりました。後でそのことが分かり、その方を福島にいる家族が助けに行きたいと申し出たのですが、放射能が高いから入れないと言われ、助けることができなかった。医者診断では、その方は2週間後位に餓死したということだった。そういう助けられなかった方への思いもあり、亡くなった方の魂を鎮める場が欲しいという思いでおりました。
- 祈念公園の中にお墓を建てることは難しいが、それに近い何かをつくって欲しいという要望が地域の方からありました。また、帰宅が許され、皆が帰ってこれるようになった時、遠くに住んでいる方が戻ってきたときに宿泊施設や集える場があったらいいという話が出ている。宿泊施設にはこだわらないが、公園に集える場所が欲しいという意見がありました。
- 津波で亡くなられた方を祀ってあげたいという思いが強い。せめて亡くなった方々の名前を記した記銘碑を建立してほしい。モニュメントなどの形のあるものを造って欲しい。

2.第1回福島県における復興祈念公園のあり方(基本構想への県提言)検討に係る住民意見発表会

日時:平成27年11月2日(月) 会場:浪江町役場2階大会議室

菅本 洋 様:【双葉町】 浜野行政区長

- 今回、復興祈念公園を造る中でお願いしたいのが、広島の平和記念公園に行ったときに見たジオラマです。今回の復興祈念公園にも、そういうジオラマが欲しいと思います。浜通りや双葉郡内の模型を造って、津波ばかりではなくて、原発事故の様子などを教材として後世に残せるとよい。命の大切さ、津波被害の大きさなども示せるような模型を造ってみたいと思います。原発と津波の災害が一緒になったのは福島県だけなので、外国の方が来ても、恥ずかしくないような公園をぜひつくってほしい。
- 慰霊碑については、津波に遭った犠牲者の名前を慰霊碑にしっかりと刻んでほしい。双葉町でも2年くらい前に慰霊碑をつくったが、慰霊碑には亡くなった人の名前も何も書いていないので、誰が亡くなって、どうなったかということが、近所の方や家族の方が見てもわからないと思う。震災前は、これまで津波が来なかったから、大丈夫だと思っていた方もいたみたいです。情報不足から避難訓練をやらなかった反省材料としても、お願いしたいです。



日時:平成27年11月17日(火) 会場:浪江町役場2階大会議室

泉田 邦彦様:【双葉町】 東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻

- 県から頂いた復興祈念公園の第1回有識者会議の資料に、公園の役割として、追悼・鎮魂の場、復興への意志を国内外へ発信する復興を祈念する場、震災の教訓を後世に伝える場と挙げられていました。公園候補地周辺が、全く復興していない状況のなかで、誰のために何のための復興なのかというのが見えてこない。全く復興していない所に復興祈念公園を造るという。私はもっと現状を踏まえるべきと思います。
- 震災の教訓・記憶を継承するという点ですが、今回の現地調査で見た諏訪神社は、私の弟や父、住民の方が3.11の時に避難して助かった場所です。けれども、それだけの通り一辺倒の公園のあり方で良いのかと疑問があります。諏訪神社がある両竹山は古代の横穴墓がたくさん残っている場所です。また戦国時代には山城があったことが確認されています。そのように、古代から中世・近世・近代と歴史が積み重なってきた中で3・11があったということをもっと相対的に把握していかないといけない。3.11だけの記憶を継承する場所ではないと言いたい。
- 継承すべき地域の歴史・文化を議論せずに、一部の指定文化財を残すだけでは意味が無い。地域にどういった歴史があって、どのように人が生活してきたのか把握し、共通の認識を持った上で、公園のあり方を考えなくてはならないと思う。
- 双葉郡というところが、原発被災地であるというところばかりが強調されている。双葉郡出身の人間だというと、あまり良い待遇をされないため、出身地を言えない人もいる。自分のアイデンティティとしての故郷がなければ、心の復興へと繋がらない。そういった意味では、双葉町、双葉郡イコール原発被災地だけではない、違った拠り所というのを造ってほしい。

2.第2回 福島県における復興祈念公園のあり方(基本構想への県提言)検討に係る住民意見発表会

日時:平成27年11月17日(火) 会場:浪江町役場2階大会議室

遠藤 健 様:【浪江町】 両竹行政区長

- 福島県全体では浜辺での犠牲者がたくさんいるので、慰霊碑を造るのであれば、各市町村名を入れて犠牲者の名前を供えた祈念碑がいいと思う。
- 若い人達が戻ってきて農家をやるという意見は少なく、復興祈念公園をつくることはいいと思う。
- 諏訪神社がここにあったとか、私達の両竹集落がここにあったということを航空写真などから形で残して頂きたい。
- 直接津波で亡くなった人が浪江の場合百数十人だが、原発事故もあり、関連死と言われる死亡者が350人程度いる。原発事故は大きな問題として取り上げてもらいたい。個人的なことだが、私の妻も関連死ということで認定を受けた。震災による精神的な苦痛やストレスは皆さん相当あると思うので、津波と地震と原発事故は絶対伝えておかななくてはならない。



日時:平成27年11月17日(火) 会場:浪江町役場2階大会議室

熊川 勝 様:【浪江町】塩沢農村広場仮設住宅自治会長・浪江町東日本大震災遺族会理事

- 地元の請戸のほうで郵便局長をやっていた。地元の人達に密着した大変恵まれた郵便局で過ごさせて頂いた。しかし、3.11のときに、家内を津波で失ってしまい、現在は二本松の仮設住宅で家内の遺骨とともに、自分を失ったような感じの生活をしている。先ほど、請戸地区を久しぶりに見て、言葉にならないような妻との愛しい日のことを思い出した。
- 公園候補地をできるならばもう少し山手の方を含めて、福島県の地形のような横長の格好で、山の方を含めて配置をしてほしい。浪江町から離れている人たちが帰ってきたとき、やはり田んぼの方だけでは、なんとなく物寂しさがあるなという感じを受ける。大平山は高齢者も散策できるようななだらかな地形なので、大平山から海への眺望や景観を考えた構造にしてあげれば良いと思う。地形を最初に考えていただければと思う。
- 浪江町では共同墓地が大平山に出来ており、そこに浪江町で犠牲者の鎮魂の場を建設するという計画がある。今回の津波で亡くなった方というのは、新地からいわきまで、浪江では私の妻も含め、多くの犠牲者が出ているので、そういった鎮魂の場を公園の中に作ったほうが良いと思う。

3.住民意見ヒアリング

日時:平成27年11月20日(金) 場所:浪江町双葉ギフト

川口 登 様:【浪江町】中浜行政区長

- 浪江町では、大震災によって多くの犠牲者が出たこともあり、祈念碑は必要だと思う。モニュメントや式典会場、駐車場等があった方が良くと思う。将来的には多目的に使われるような式典会場があればよいと思う。
- 浪江町では運動が盛んだったので、パークゴルフやグラウンドゴルフなど高齢者のための多目的スペースなど、運動施設や多目的広場、機能的には見晴らせるようなものがあれば非常に良いと思う。
- 問題は、人がいなくなってしまうこと。農地の問題もある。町でも農地再生の話があるが、遠くから通ってまでする人はいないと思う。高台移転もだんだん希望者もいなくなっている。人が来ないとどうにもならないと思う。漁業にしても農業にしても、後継者もなく、人材の確保を気にしている。
- 町全体が壊滅してしまったので、田畑や宅地もなく、帰る人もいないということを考えると街並みを再現したレプリカやジオラマのようなもので、自分の家があった証があれば良いと思う。

3.住民意見ヒアリング

日時:平成27年11月29日(日) 場所:双葉町役場いわき事務所

田中友香理様:【双葉町】 東日本大震災三周年追悼式(政府主催)福島県遺族代表

- 私は、3月11日は仕事場にいたため、津波には直接あってはいない。夜は双葉町内で一夜を過ごした。消防団の方が津波被災地の捜索をしてくれたようだが、父は見つからなかった。3月12日、父の行方を捜そうと実家の方へ向かったが、途中で避難指示が出て捜索出来なかった。40日後に捜索が開始され、父は見つかった。現在、父が見つかった場所は帰還困難区域となっているので自由に花を手向けに行くことも出来ない。
- 双葉町内の6号沿いに町の慰霊碑があるが、きちんと追悼できる場所となっていない。復興祈念公園内に、亡くなった方の名前を入れた慰霊碑を建てて欲しい。また、復興祈念公園内に、町を懐かしむことが出来るような町の模型などを設置し、公園内で模型などを見ながら、皆で思い出話が出来るようにして欲しい。
- 公園候補地内に墓地があったが、先祖の遺骨(魂)を移動しても、お墓があった場所が解るようにして欲しい。
- 公園に皆が何回も足を運んでもらえるよう、365日お花が咲いているような公園にして欲しい。